

第2回 県立高等学校改革懇談会 【二本松工業・安達東】

日時：令和2年 2月 4日（火） 14:00～15:30
場所：福島県立安達東高等学校 大講義室

福島県教育委員会

本日の進め方

1	二本松工業高校・安達東高校統合校の 方向性について
2	第1回改革懇談会でいただいた御意見について

1

**二本松工業高校・安達東高校統合校の
方向性について**

急激な少子化

○ 全県的な中学校卒業見込者数の減少

- ・ 2017年から2028年間で**約5,300人**の減少

○ 二本松市の少子化

- ・ 10年間で**176人(33.8%)**の減少

生徒数が
現在の約3分の2に減少

○ 両校の定員充足の状況

- ・ 直近5年間のうち、二本松工業 **3年間** 定員割れ
安達東 **4年間** 定員割れ

高校改革は喫緊の課題

二本松工業高校

定員120名

- 機械システム科(1学級)
- 情報システム科(1学級)
- 都市システム科(1学級)

安達東高校

定員80名

- 総合学科(2学級)
- 教養・専門(家庭・福祉・**農業**)

福島明成高校

定員240名

- ・ 生物生産科
- ・ 生物工学科
- ・ 環境土木科
- ・ 食品科学科
- ・ 生産情報科

集約

2023年4月開校予定

二本松工業・安達東統合校 (仮称)

定員：160名 工業科3学級・家庭科1学級

場所：二本松工業高校校舎

二本松工業・安達東統合校(案)のイメージ

職業教育推進校

二本松・安達地域の工業科教育と家庭科教育の拠点校

地域との連携等による工業科教育の充実に加え、工業科と家庭科の連携による専門的な学びと職業観や勤労観を醸成する教育の充実により、地域産業を支える人材を育成

- 両校の学びの継承と充実
 - ・ 二本松工業高校における専門性を身に付けさせるための丁寧な指導
 - ・ 安達東高校における地域との連携による家庭・福祉の学び
- 工業科と家庭科における学科横断的な学び
- インターンシップの充実

**個に応じた進路指導の充実
(就職・進学)**

**主体的・対話的で
深い学びの実現**

**工業科と家庭科の
学科間連携**

専門的な技術・技能の指導

**地域企業や専門学校等との
連携による体験的な学び**

**職業観や勤労観を
醸成する教育の充実**

2 第1回改革懇談会でいただいた御意見について

第1回懇談会でいただいた主な御意見

① 安達東高校の存続について

- 大規模校でなくても小規模校でもきちんと教育ができるのではないか。
- 2クラス規模でも人間性は育めるのではないか。

② 統合校の特色化・魅力化

- 統合校の家庭科については、男女問わず生徒が集まるような学科にしてほしい。
- 両校が行ってきた取組や伝統を引き継いで欲しい。
- 新しい学校を作るチャンスを活かすべきではないか。

③ 今後のスケジュールについて

- 保護者や生徒の不安を解消するためにも、しっかり情報共有をしたい。
今後の方向性についてスモールステップで出してほしい。

①安達東高校の存続について ▶ 県立高等学校改革前期実施計画公表までの経緯

学校教育審議会の動き

※有識者19名で構成

- 平成28年 5月 社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について諮問
 - 平成28年 7月～ 学校訪問（都市部の高校、周辺部の高校）
 - 平成28年 12月～ 中間まとめ公表（県内7地区での※教育公聴会）
 - 平成29年 6月 県教育委員会へ答申
- ※教育公聴会メンバー：各地区の中学生、高校生
小中学校のPTA会長および高等学校評議委員

県立高等学校改革基本計画 素案公表 平成29年 11月

県民の皆様からの意見聴取

- 平成29年11月～平成30年2月 **パブリックコメント**（期間を延長して実施）
- 平成30年 1月 **県内7地区での※教育公聴会**

県立高等学校改革基本計画の策定 平成30年 5月

- 県立高等学校改革**前期**実施計画（2019年度～2023年度）5年間 （平成31年2月公表）
- 県立高等学校改革**後期**実施計画（2024年度～2028年度）5年間

文部科学省

集団の中で切磋琢磨しながら学習したり、社会性を高める学校の特質に照らし、学校は本来一定の規模を確保することが望ましい。

平成27年1月
中央教育審議会

福島県学校教育審議会

望ましい学校の規模を1学年4学級以上とする。1学年3学級以下の学校については、地域の関係者の意見も聴くとともに、学校の魅力化を図りながら、都市部も含めて学校の統合を推進するべきである。

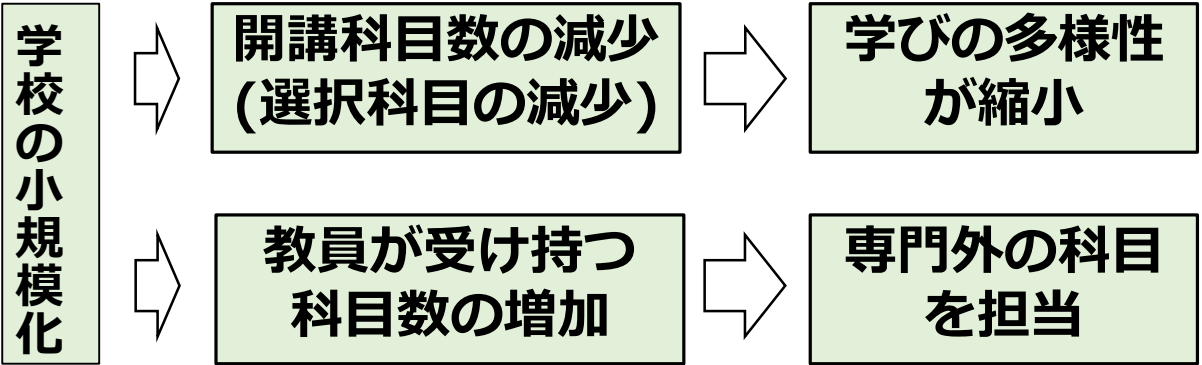
平成29年6月
学校教育審議会

受講できる科目の制限

学級数 (例)	開講科目数 (例)	教員が担当する科目数
6	50	1.2
5	47	1.3
4	45	1.6
3	43	2.0
2	41	2.7
1	34	4.3

学校での教科・科目 (例)

教科	科目
英語	英語 英語表現 英語会話
数学	数学(I, II, III) 数学(A, B)
理科	物理 化学 生物 地学
地理歴史	世界史(A, B) 日本史(A, B) 地理(A, B)
公民	現代社会 倫理 政治・経済
国語	国語総合 現代文(A, B) 古典(A, B)
保健体育	体育 保健
家庭	
情報	
芸術	音楽 美術 書道
L H R	ロングホームルーム



教員の校内業務

クラス担任、副担任、**教務**、**生徒指導**、**進路指導**、保健、
 渉外、総務、地域連携、生徒会、図書、視聴覚

	1学年4学級	1学年3学級	1学年2学級	1学年1学級
教員が担当する科目数	1.6	2	2.7	4.3
部活動数	運動部 1 1	運動部 8	運動部 8	運動部 2
	文化部 9	文化部 3	文化部 3	文化部 2
教務（専門の教員数）	6	2	2	1
進路（専門の教員数）	4	2	1	0
生徒指導（専門の教員数）	3	2	1	0
学校司書	1	0	0	0

○ 一定の集団規模を確保した望ましい学校規模の中で、生徒同士が切磋琢磨しながら**向上心や人間性を育む**とともに、**探究的な学びなどの新たな取組**をとおしてより深い学びが実践できる。

○ 望ましい学校規模とすることによって、教員数が確保され、**生徒は多様な選択科目の中から自分の学びたい分野や進路に合った科目を選択**できる。

二本松工業高校

安達東高校

統合校



一定の集団規模を確保し、学びの質を高める

- 工業科教育及び家庭科教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動
- 地域との連携による体験的な学び



地域に貢献し、地域を支える人材の育成
生活産業の各分野において活躍する人材を育成

工業科

機械システム科（仮称）

機械技術の分野

学習内容：材料、加工法、CAD、設計、機械制御等

情報システム科（仮称）

電気技術や情報通信の分野

学習内容：電気技術、電気工事、情報通信、プログラミング等

都市システム科（仮称）

土木技術や**建築**の分野

学科改編を検討

学習内容：土木技術、測量、建設機械、木工等

家庭科

（新）地域生活文化科（仮称）

生活産業の分野

学習内容：衣食住、保育、福祉等

機械システム科(仮)

旋盤・CAD・ロボット制御・
システム制御

「ものづくり」の計画立案
や設計を習得

機械技術の発展を担う
職業人の育成

情報システム科(仮)

- ・ **エレクトリックコース**
発電機・モータ・電気工事
- ・ **コンピュータコース**
マイコン制御・プログラミング学習

電気技術・情報通信に関する
基礎的な知識・技術を習得

電気や情報において、地域に貢献
できる実践的技術者の育成

都市システム科(仮) **学科改編を検討**

従来の土木系の教育内容に加え、建築の基礎的な知識・技術を習得



土木技術 + **建築**

木材加工(案)等

地域産業を支える実践的な土木技術者の育成
総合建設に対応できる人材の育成

取得可能な資格の例

2級土木施工管理技術検定
測量技術検定等

卒業後の進路(例)

進学 土木系の大学、短大、専門学校等

就職 建設、鉄道、測量コンサルタント、
土木系公務員等

(新) 地域生活文化科(仮)

衣食住・保育・福祉に関するより深い学びを実現し、地域生活文化を伝承し創造する



食物・被服・保育・福祉

**ふくしまの生活と産業を
支える人材の育成**

取得可能な資格の例

食物調理技術検定、被服製作技術検定、
保育技術検定、社会福祉・介護福祉検定等

卒業後の進路(例)

進学

栄養、保育、福祉系の大学・短大
調理系・保育福祉系の専門学校等

就職

製造、調理、介護等

工業科と家庭科の学科間連携

**ユニバーサルデザインを
取り入れた「ものづくり」**

ユニバーサルデザインとは、
年齢や性別、身体的能力などの違いにかかわらず、はじめ
から、できるかぎりすべての人が使いやすいように、製品
や建物、空間をデザインしようとする考え方

〔二本松工業〕

○ 夏休み親子LED体験教室(LEDランプ製作)

→ 地元企業と連携し、
生徒が小学生に技術指導

「ものづくり」への興味・関心



○ 地元企業の方を講師に招いた技術指導

→ 溶接，測量に関するドローン活用等

○ 大笹生支援学校への自作教材の提供

→ 教材製作による支援学校
の生徒たちとの交流

豊かな心を育む



ボタンが大きく操作しやすい
「録音再生ボックス」

〔安達東〕

- **地域とのコラボ**
→ 商品開発・高校生カフェ
- **地域の認定こども園・社会福祉協議会等との連携**
→ 保育・福祉に関する体験的な学び

〔二本松工業・安達東 両校共通〕

- **インターンシップ**
→ 職業観・勤労観の醸成



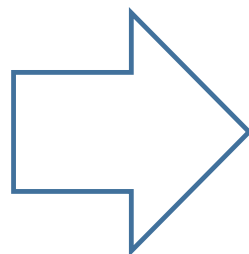
連携先

地元自治体

地元企業

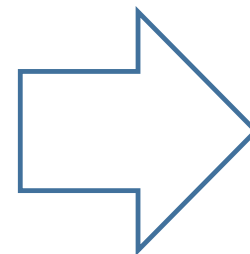
大学

専門学校



地域との連携による
体験的な学び

統合校



生徒の変容・成長

コミュニケーション能力

自己肯定感

貢献意欲

地域への愛着

卒業後の進路(例)

進学 大学,短大,専修学校

就職 製造,建設,医療,福祉,
サービス,公務員等

社会の変化に的確に対応できる生き抜く力の育成

③今後のスケジュールについて

統合校開校準備スケジュール(案)

2019年度 (令和元年度)				2020年度 (令和2年度)				2021年度 (令和3年度)				2022年度 (令和4年度)							2023年度 (令和5年度)								
11	12	1	2	3	4	5	6	...	3	...	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
両校の教職員による教育内容検討委員会																											
統合校の教育方針・教育目標・ 教育課程等の検討				8月基本計画策定				統合校の校名決定 統合校の校章・校歌・校旗 の検討				統合校体験入学実施							統合校入学者選抜	統合校 開校式 入学式							
統合校の魅力化・特色化の検討				制服の検討・決定				中学生への説明																			
現在								2021年度入学生 【統合時3年生】				2022年度入学生 【統合時2年生】															